第２講　返り点
# PART１　レ点／一・二点／上・中・下点

## 三　返り点

（＊**三**の例文中も**二**の例文同様、**助詞・助動詞の漢字**は**太字**、置き字には影をつけています）

①　レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②レ①

（例）

酤ウルレ酒ヲ。　〔酒を酤る。〕

空山くうざん**不**ずレ見レ人ヲ。　〔空山人を見**ず**。〕

注　空山…人気のないひっそりした山。

食ラフレ之これヲ。　〔　　　〕

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一　／　④レ③二①②一　／　⑤三①④二②③一

（例）

絶エテ不(ず)二飲食一セシメ。〔絶えて飲食せしめず。〕

我与(ために)レ汝(なんぢ)ノ結二今身(こんしん)ノ縁一ヲ。〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

項王乃(すなはチ)欲(ス)三東(ひがしノカタ)渡(ラント)二烏江(うかう)一ヲ。〔項王乃ち東のかた烏江を渡らんと欲す。〕

注　烏江…長江の渡し場。

移(シテ)レ舟ヲ泊二煙渚(えんしょ)一ニ。〔　　　〕

注　煙渚…夕もやにつつまれた岸辺。

③　上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例）

有（リ）下献（ズル）二不死**之**（の）薬（ヲ）於荊王（ニ）一者上。〔不死の薬を荊王に献ずる者有り。〕

僕時（ニ）雖（いへども）下稍（やや）知（リ）二愛敬（あいけいスルヲ）一、**不**（ざ）中従（ヒテ）レ衆（ニ）非笑（セ）上（ルト）、…〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せ**ざ**ると雖も、…〕

**不**（ず）レ聞（カ）下人（ノ）**従**（より）二日辺（ひへん）一来（タルヲ）上、…〔　　　　〕

〈Memo〉

# 第2講　PART1　確認問題

① ○の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「○○レ○○レ○○レ○」

ア ①②レ③⑤レ④⑥レ⑦

イ ①③レ②④レ⑤⑦レ⑥

ウ ②①レ③④レ⑤⑦レ⑥

エ ①③レ②⑤レ④⑦レ⑥

② 数字の順番に読めるように返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「④①②③⑤⑧⑥⑦⑨」

ア ④二①②③一⑤⑧二⑥⑦一⑨

イ ④レ①二②③一⑤⑧レ⑥⑦⑨

ウ ④二①②一③⑤二⑧⑥一⑦⑨

エ ④①レ②レ③⑤⑧二⑥⑦⑨一

③　〇の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「〇下〇二〇〇一〇〇中〇〇〇上」

ア　③下⑥二④⑤一⑦②中⑧⑨①上
イ　⑨下③二①②一④⑧中⑤⑥⑦上
ウ　⑥下③二①②一⑦⑤中⑧⑨④上
エ　⑤下②二⑥①一⑦④中⑧⑨③上

④　「不患人之不己知。」を、「人の己(おのれ)を知らざるを患(うれ)へず。」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不レ患二人之一不二己知一。
イ　不三患二人之一不二己知一。
ウ　不レ患三人之不二己知一。
エ　不三患人之二不己レ知一。

⑤　「客有能為狗盗者。」を、「客(かく)に能(よ)く狗盗(くたう)を為(な)す者有り。」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　客有上能為一狗盗二者下。
イ　客有二能為狗レ盗者一。
ウ　客レ有下能二為狗盗一者上。
エ　客有下能為二狗盗一者上。

# 解答

## 第2講　PART1　解答

三
① 〔之を食らふ。〕
② 〔舟を移して煙渚に泊す。〕
③ 〔人の日辺より来たるを聞かず、…〕

# 第2講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「レ点」は、すぐ下の一字からすぐ上の一字に返って読む、という記号である。基本的には上から見ていき、返り点のついていないものから読み、返り点が出てきた時点でその指示に従う。一字目はそのまま、二字目は「レ点」がついているのでその下の三字目から読む、という手順を繰り返していく。

② ①②③は上から順番に読み、③から④へは二字以上返って読むので、③の下と④の下に一・二点をつける。⑤は順番通りに読むので何もつけず、⑥⑦から⑧へは①②③から④へと同様に二字以上返って読むので、⑦の下と⑧の下に一・二点をつける。

③ 「上・中・下点」は、一・二点をはさんで上に返って読む、という記号である。まず一字目は「下」が、二字目は「二」がついているので保留、三字目→四字目と読み、四字目に「一」がついているので二字目に返って読む。その後、五字目を読み、六字目は「中」がついているので保留、七字目→八字目→九字目と読み、九字目に「上」がついているので、六字目（中）、一字目（下）と順に返って読む。

④ 「之」は助詞「の」、「不」は助動詞「ざ（る）」・「ず」として、書き下し文では平仮名で書かれている点に注意する。最初の二字は書き下し文から考えると最後に読むので保留にし、まずは「人之」を読む。「不己知」の部分は「己を知らざる」と二字以上返って読むので「不二己知一」となる。更に、保留にしていた「不患」に返って「患へず」と読むために、「患」に三点、「不」にレ点がつく。

⑤　「客」ははじめに読むので返り点はつかない。「有」は最後に読むので上点はつかない。次に、「能為狗盗」の部分は書き下し文では「能→狗→盗→為」という語順なので、「盗」から一字はさんで「為」に返って読むため「一・二点」を使用する。この部分を読んだ後、一番下にある「者」を読み、そこから一・二点を使用した部分をはさむ形で最後まで保留にしていた「有」に返って読むので、「上・下点」を使用する。

**〔解答〕**

①　エ　②　ア　③　イ　④　ウ　⑤　エ